

### 早くこいこいお正月 その3

令和の時代になって、初めてのクリスマスがやってきて、初めてのお正月がやってくる。幼い時には、クリスマスなど遠い国のものだった。トムとジェリーやディズニーの映画の中にクリスマスはあった。

小学生になると、なぜか家の中にクリスマスツリーが飾られるようになった。それから、靴の形をした入れ物の中にお菓子がぎっちり入ったプレゼントや、コナミの野球盤が25日の朝にツリーの下から出てくるようになった。

家のお風呂は五右衛門ガマだったから、あんなに細い煙突をどうやってくぐってくるのか不思議だったし、煙突から鎌の下に入ると、すすで真っ黒けになるだろうと想像できたので、五右衛門ガマのふろの煙突はサンタクロースはきっと嫌いだろうとずっと思っていた。

お正月のための準備は、山に行き榊と松を採取したのち、稲藁をもじって正月飾りを作ることや、玄関での餅つきから始まった。家の玄関の上り口は、広い土間になっており、5月の季節にはブリキで作った盤を用いてお茶をもんだり、秋にはもみ殻を藁俵にいれ何俵も積んだり、玄米を収納しておく大きな円筒形のコメ入れがあったり、10畳ほどの空間だったので、そこに臼を洗って据え置いて、杵を入れたバケツに水を張り、台所で蒸されたもち米をおもむろに臼に入れて、杵でこねだした後、父と母が音頭を取りながら、餅つきをするのであった。餅にする前のもち米を蒸したものが美味であった。少しもらって食べると、口中に特有の甘みが広がるのである。

突き上げた餅は、粉を引いた大きな箱に入れ、大きくのぼしてみたり、小さくちぎって丸餅にしたり、それぞれの役割ごとにまとめ上げられていく。お正月の終わりごろまで、雑煮や上げ餅や、細かく砕いて油で揚げて食べたかきもちなど、様々な食べ方で約10日間の食料になるのであった。

そんな時代はとうに大きく変遷し、正月飾りも餅もマルトから仕入れるだけになってしまった（そのうちこんなこともしなくなる時代が来るに違いない。）が、1年のうちで、一番心穏やかに過ごせる時期であることは間違いない。

そんなお正月は、受験生にとっては、違う季節であるのは明白であり、今年はゆっくりなどせず、テレビなどで楽しむ時間もなく、せっせと勉学に勤しむことが重要である。

合格すれば、お盆とお正月がいつぺんにやってくる。この世の春となる。その日を信じて頑張っていきましょう。